

1971年 8月7日 第三種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）
2000年12月1日発行 SSKA通巻3726号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第17号



今村 柚巴 ちゃん
ゆずは

私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す



J R P S 神奈川支部

神奈川支部支援会員（順不同）

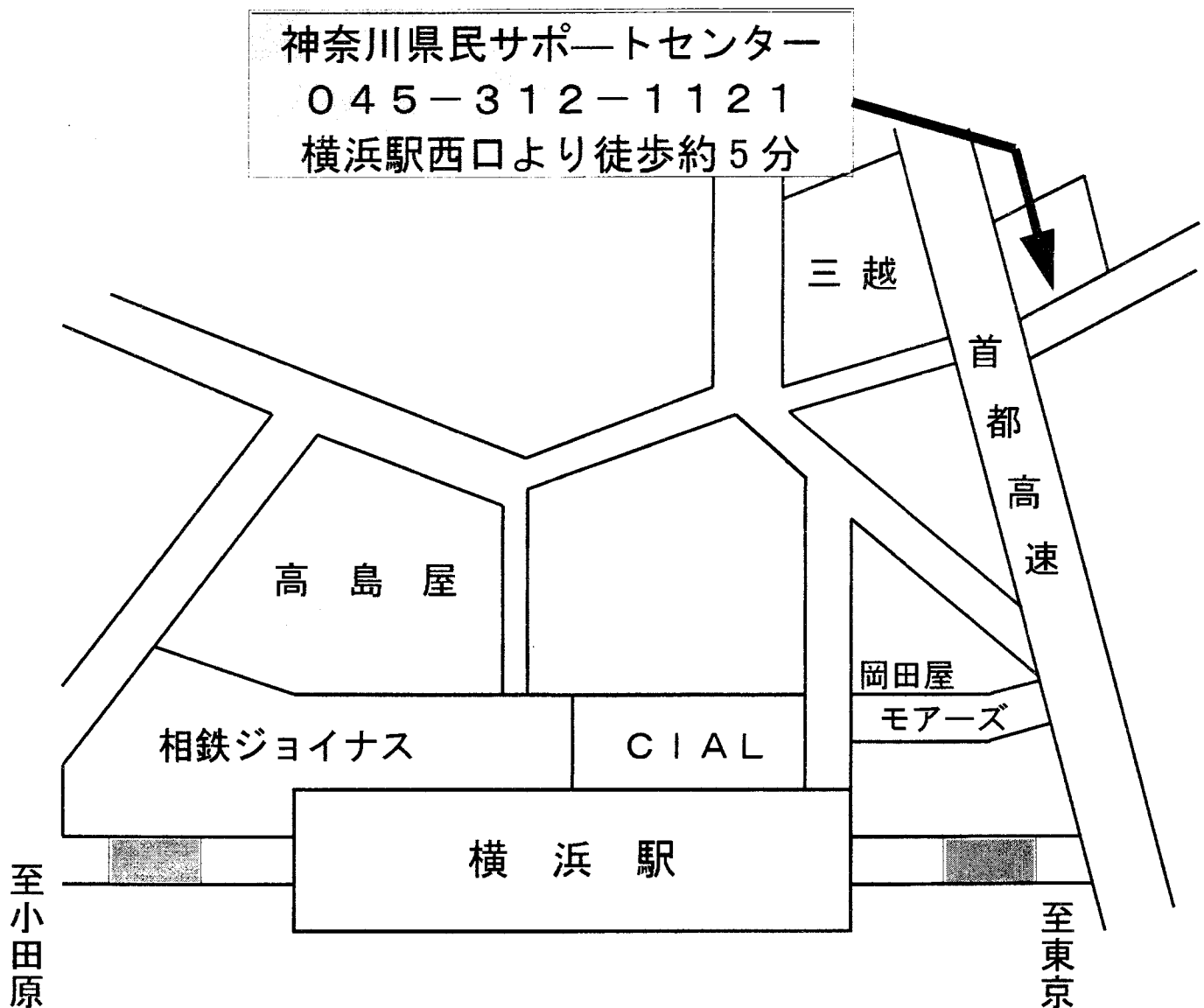
- ・（株）東栄エンジニアリング
- ・（有）結伸工業
- ・ 英弘精機（株）
- ・ フォトプレシジョン（株）
- ・（株）ナカダ技研
- ・ 高木 緑様
- ・ 木村邦雄様
- ・ 細川和明様
- ・ 豊嶋識明様
- ・ 宮戸征美様

☆ご支援に心より感謝いたします☆

神奈川県民サポートセンター

045-312-1121

横浜駅西口より徒歩約5分



目 次

— J R P S 神奈川の活動 —	2
●活動報告	2
【得々講座 年金について】	2
●活動予定	3
— 情報コーナー —	3
●神奈川ロービジョンネットワーク発足	3
●障害者の人権 1 1 0 番	4
●連載 よもやま情報 (1 3)	5
— 投稿 —	6
●神奈川支部の支部長になって	6
●理療科(盲学校)奮戦記 No. 1 1	6
●「投稿魔」	8
●ウッチャンの体験記シリーズ	1 0
●俺の生き様 “カミングアウト”	1 3
● “秋”	1 4

— J R P S 神奈川の活動 —

●活動報告

【得々講座 年金について】

10月、11月のミニ集会では、日ごろから質問が多く、また、専門の方でないと答えられないような内容が多い、年金について取り上げました。講師として七沢ライトホームの遠藤先生にご来場いただき、神奈川県の高齢者年金制度のあらましについて説明していただきました。様々な質問が出ましたが、切実なものは網膜色素変性症の発症がいつなのか、初診日がいつかで年金の取り扱いがかなり変わってしまう現実があることです。厚生年金と障害者年金にはかなりの格差があります。また、年金の受付窓口の担当者の対応にも質問や意見が多くありました。請求書類が煩雑なだけでなく、年金担当者の心無い一言で非常に不愉快な思いをして帰ってくる人が多くいるようです。

得々講座では、「なんでも便利帳」を配布しました。これは年金制度に限らず神奈川県の福祉サービスがまとまっている冊子です。支部の役員である小泉暁美さんが県の発行している福祉の案内から網膜色素変性症の視覚障害者に対するサービスを抜き出して、分かりやすくまとめたものです。簡単に目次を見ますと、障害者手帳、施設、医療、用具、人的サービス、年金・手当、税金、公共料金、生活関連、レクリエーションとなっています。今は残部がありませんが、増刷しておきますので必要な方はミニ集会のときにでも役員に声を掛けて下さい。

●活動予定

12月10日（日） ミニ集会（サポートセンター 604）
13時～16時

※ミニ集会が終わった後は忘年会を予定していますので、時間がある方はご参加下さい。

2001年

1月14日(日) ミニ集会(サポートセンター 604)

2月10日(土) ミニ集会(サポートセンター 705)

3月11日(日) ミニ集会(サポートセンター 604)

時間はいずれも13時～16時です。

— 情報コーナー —

●神奈川ロービジョンネットワーク発足

昨年2月、県総合リハビリテーション病院、七沢ライトホーム、北里大学をはじめ、視能訓練士、ケースワーカー、教育関係機関など、30数名が集まり、「ロービジョンを考える会」の第1回研修会をライトセンターで開催。その後、「神奈川ロービジョン連絡会」を設立し、県内の視覚障害者のロービジョン相談に必要な情報交換やネットワーク作りを重ねて、10月14日に神奈川県医療会館で、県眼科医会の後援のもと、名称も「神奈川ロービジョンネットワーク」と改称して設立総会が開催されました。当日は眼科医師30数名をはじめ、ケースワーカー、視能訓練士、教育関係者、施設職員、誘導ボランティア、視覚障害者など約100名が参加してこれからのロービジョン医療の前途に明るい光が差してきたのを実感しました。「神奈川ロービジョンネットワーク」(代表世話人：横浜市立大学・高野雅彦)は県下4大学(横浜市立大学、北里大学、東海大学、聖マリアンナ医科大学)を基点にして、総合病院、開業医、教育機関、施設が連携して視覚障害者にロービジョンクリニックのサービスを実施しようというものです。「見えない・見えづらい」と感じたら、ロービジョンの門を叩いて見ましょう！ 残存視覚、視力を最大限に引き出し、見えなかったものが見えるようになるかも？ 見えなくても不自由さがもっと改善されるかも？

日本で初めての組織的な視覚障害者のための「神奈川ロービジョンネットワーク」です。これも利用者がいなければ萎んでしまいます。「ロービジョンネットワーク」が発展するか、否かは、私達視覚障害者がどれだけ利用するかにかかっています。皆さん、おいに利用して、更に視覚障害者にとって良い環境を作りましょう！

ロービジョンクリニックについては、現在診療してもらっている病院に問合せして下さい。分からない場合はネットワーク事務局又はJ R P S 神奈川事務局に問合せ下さい。

・ 神奈川ロービジョンネットワーク事務局

県総合リハビリテーションセンター・眼科・七沢ライトホーム

TEL 0462-49-2528 (眼科・仲泊)

0462-49-2421 (七沢ライトホーム・渡辺、
末田)

FAX 0462-49-2502 (眼科)

0462-49-2411 (七沢ライトホーム)

e-mail *****jp

・ J R P S 神奈川事務局

TEL 04 *****

FAX 04 *****

e-mail rp-na *****

●障害者の人権110番

横浜弁護士会では、障害者の日にちなみ、電話・FAXによる障害者の人権に関する無料法律相談を、昨年に引き続き実施致します。横浜弁護士会所属の弁護士が法的な側面から、障害者又は家族の方々が抱えておられる様々な問題点について、ご相談に応じ、解決の一助になればと実施いたします。1日限りの電話相談ではありますが、FAXも用意しておりますので、お気軽にご相談をお寄せ下さい。

日時：平成12年12月8日（金）

午前10時～午後4時

電話：045-664-3612

FAX：045-664-3615

FAXでご相談の方は連絡先明記の上、必ず時間内にお流し下さい。

障害者の人権110番の実施に関するお問合せは

「弁護士会事務局」（045-211-7707）まで。

－横浜弁護士会のパンフレットより－

●連載 よもやま情報（１３）

ＵＳＪ全アトラクションを障害者対応に来春、大阪市に開業する米映画のテーマパーク、ユニバーサルスタジオジャパンを運営するユー・エス・ジェイ（ＵＳＪ 大阪市）は、障害者や高齢者に配慮して障壁を取り除くバリアフリー化を徹底する。全アトラクションを障害者対応にする他、目の不自由な人向けの音声案内や特殊なトイレを設置する。障害者料金（一般の半額）も設ける計画だ。アトラクションは、重度の障害者を除き、全ての人が利用できるようにする。目の不自由な人にはヘッドホンを渡し、そばにある施設の案内を自動的に聞くことができるようにする。盲導犬に加え、日常生活の手助けをする介助犬も受け入れる。点字地図や指で形をなぞって理解する「触る地図」も設置する。

（点字ＪＢニュースより）

— 投 稿 —

●神奈川支部の支部長になって

横浜市 大窪 融

今年度から支部長になった大窪です。中村前支部長が本部の事務局長となり2002年の世界大会に向けて尽力されることになり、私が後を受けて支部長となりました。中村前支部長ほど精力的に、また、幅広く活動することは出来ませんが自分なりに精一杯やろうと思っていますのでよろしくお願いします。先日、神奈川ロービジョンネットワークの設立総会に行ってきました。また、眼科医師会からJ R P S神奈川支部に寄付があり、いただきにきました。会を代表するとこのような役割もあるのだと実感しました。

11月18、19日とパシフィコ横浜の国際会議場3階で日本視能矯正学会がありました。全国から視能矯正士、検査技師、視能訓練士の方々が集まって研究発表をする学会です。そのロビーにブースをもらいJ R P Sの宣伝をしてきました。かなりの方がJ R P Sを知っていらっしゃいましたし、大変に興味をもたれていることが分かりました。多くの一人で悩んでいる患者さんに伝えていただければと思いました。今回は川崎の宮本さん、横須賀の内田さん、横浜の竹川さん、森口さんが来てくれました。2日間ありがとうございました。本部の釜本会長からもお礼のメールが来ています。今後本部からの要請があれば応えていきたいと思いますのでよろしくご協力ください。

●理療科(盲学校)奮戦記 No. 11

小田原市 佐々木裕二

皆さんこんにちは。立冬も過ぎて、もう暦の上では冬。暖かい日と冷たい風の吹く日が代わりばんこで体調を崩してはいませんか？

～専門学校の見学～

先日鍼灸の専門学校を見学してきました。盲学校とは同じ鍼灸の資格を取る学校でもこんなに違うのかと驚きました、色々検討されている方もいらっしゃると思いますので少しばかりご報告いたします。

あれもこれも違うのですがまず最初に生徒の数と年齢が違いました。私のクラスは9人(それでも一番多い)。ところがその学校は一学年80名で3クラスに分かれていました。平均年齢も若く27才位とのことです。学科の授業はもちろん、実技の実習室はもう熱気ムンムンでした。でもここでもう一つ違ったのが先生の数です。いや、生徒一人当たりの先生の数です。30人近い生徒の実習を一人か二人の先生で教えているようでした。もちろん晴眼者なので、手取り足取りが必要ないのもあると思いますが、「ある程度自分でやる事が必要。」と案内の先生もおっしゃっていました。自分たちは恵まれてるなあと感じる一方、盲学校の先生方は大変なんだなとも感じました。

学科の授業でもそうです。先生が黒板に色々書いて「教科書の何ページの図を見てえっ！」とやっています、盲学校ではこうはいきません。模型を持ってきて触らせたり、筋肉の走向が分かるようにテープを貼ったり…。本当に良くやって下さいます。

授業の内容として新鮮だったのは、テーピングの実習を見学できたことです。スポーツトレーナーやスポーツ障害への関心が高いということのでかなりの時間が割かれているとのことでした。しかし私たちはテープを触ることもありませんでした。

もう一つ大きな違いは「臨床」です。臨床とは患者さんの治療をすることです。盲学校では、2年生は按摩を3年生は鍼の臨床実習があります。学校の近くの方々が肩こりや腰痛、五十肩、神経痛など色々な症状で来られます。実際の患者さんを通しての実習は治療の難しさも喜びも実感できる大変貴重なものです。ところがその学校では、とてもきれいな臨床施設があるにもかかわらず、生徒は見学だけで実際の患者さんは扱わないそうです。生徒同士での模擬臨床だけだそうです。この違いは大きいと感じました。

施設はとても立派で油圧式の昇降ベッドや充実した参考書、求人も沢山沢山貼り出されていました。盲学校はなかなか求人がありません。さあ、あなたが第二の人生の出発を託すとしたらどちらを選びますか？そうそう3年間で、400万円位かかるそうです。

～またまた模擬試験～

国家試験まで、3か月となりました。今月(11月)は2回目の模擬試験があり、全国での順位がでるそうです。国家試験は按摩・マッサージ・指圧の試験が150問。次の日鍼灸の試験が160問です。合格ラインは60点ですが、個別にやはり60点取らなければならない科目があります。

卒業論文とも言える臨床レポートも12月には提出です。これは、担当した患者さんから1人を選び、その治療と経過・結果を考察するものです。やたら忙しくなりそうな年末です。でも3年間の集大成、頑張らねば。

～慣れた道路も注意注意～

ある日のこと。4車線の道路を渡ろうと、まず右側から自動車の来っていないことを確認し、センターラインまで歩いて出ます。そこで左から来る車に渡らせてくれえとアピールします。ところがいつものようにすぐに止まってくれない。今日はえらく不親切だなあと不機嫌になりながらなんとか渡り終えました。もちろん横断歩道はありますヨ。

2～3日後、クラスメイトと帰る途中。「あの横断歩道に信号ができたの知ってたあ?」「えっ!」と私。なんとそこには押しボタン式の信号が付いているではありませんか! そうです、私は青信号の自動車を止めて渡っていたようです…。冷や汗です。

皆さん、慣れた道路ほど注意がおろそかになりがちです。そしてまだまだ見えていると思っているあなた、実は見ていないところがずっと見えなくなっているかも知れません、暗いこの季節気を付けましょうネ。

それでは今回はこのあたりで。

●「投稿魔」

川崎市 岩佐浩司

中村さん、なんたって神奈川が一番です。神奈川支部が一番というより、中村さんの啓蒙活動には頭が下がる思いです。中村さんの投稿文を読んで二宮さんからミニ集会に誘われた頃を思い出しました。難聴のため集会が苦手という私に再度のお願い。何度も断っては失礼と思い、初めて参加したものの、二宮さんと中村さんしかお

らず、正直「いつもこんなに少ないのかな？」と思いました。あの頃は私も中村さんも白状をついておらず（あの頃に戻りたい）あれから多くの方々のRPが進んでしまいました。それにしてもこの病気、障害者手帳の等級に該当するまでがとても長いのに、ひとたび障害者手帳を取得すると加速度的に進行するのは何とかならないと思いませんか皆さん？味も素っ気もない。

中村さん、長い間お疲れ様でした。これからは神奈川でしてきたことを全国展開してね。

さて、今年の夏は日当たりの良い二階の部屋に引っ越したおかげで、皆既月食を多摩川の土手まで行かなくても部屋の窓から見る事が出来ました。演歌の花道をイヤホンで聴きながら座椅子にもたれつつ、やはり天文ファンとしては大流星群・大彗星・皆既日食（ダイヤモンドリング）を見たいなあと思いました。皆既日食は2009年にあるとはいえ、7月22日は台風の季節が始まる頃、それに曇ったらアウトなのでリスクが大きく、今のところ奄美大島まで行く気にはなれない。獅子座大流星群は2年続けて失敗しているし、どうやら目が治ったら清里から野辺山にかけてスターウォッチングする夢ともどもかないそうにない。ここの部屋からは多摩川の花火（低いのは見えないが）も見える。獅子座流星群もこの位明るければ見えるのにと思いつつ、しばし楽しんだ。

最近ミニ集会にはとんとご無沙汰している。体調が悪いからだ。脳に強い圧迫感を感じて救急車に運ばれて入院したのが一昨年の春だから、もう随分経つ。未だに通院していて、血液を良くするとか言う注射を打ってもらっている。（それも毎日だ）病名くらいいついいてもよさそうなものだが、これが無い。

何でも脳の血管が詰まったからではないかと言われた。倒れた時には冗談抜きで死ぬかと思った。脳卒中はこういう具合に死んで行くのかと思うと、脳卒中であの世に行くのだけは御免被りたいものだ。

J R P Sの行事もあまり参加しなくなり、このままではいけないと思うのだが、私の場合、飲み会に参加しても対面との会話もままならないのはつらい。少しでもつながりを持つ為に、投稿文を多くしようと思いついた。投稿魔である。といってもアイヤ会版のああるぴいが中心となります。アイヤ会の会報が一番おもしろい。患者の声が一番ストレートに出ている。聴覚の話も出てくるので、普通

のRPの方が読んでもそれほど面白くないかもしれないが、本部会報のあるびい本部・支部活動の行事日程表と化し、患者の本音が出てこないのは公共性が強いので仕方ない面はあるが、何と云っても本音が一番面白い。

これからは神奈川の会報にもどんどん投稿しようと思う。ウッチャンの体験シリーズみたいに面白くはないと思うけど、面白くなければ飛ばしてください。気にせず勝手にどんどん投稿しますので宜しくお願いします。

●ウッチャンの体験記シリーズ

横須賀市 内田 知

ミレニアム最後の投稿として2つのことを書きたいと思う。

1つは、「夢の中の記憶」について、もう1つは「健常者の思い」について。少し長くなりますが、お付き合い下さい。

何年前になるだろう。病気が進み、一人で出かけることが困難になり、家族との会話も必要最小限となり、自室にこもり自暴自棄に陥っていた。読みたい本の文字を必死に追いかけるが、首を上下左右に動かしているだけに気づき、途中で諦めた。手に触れるものがなんであるか分かっているのに、目で確かめることが出来ない。苛立ちと諦めと混乱の中で自分を見失っていた。過去も未来も現在さえも考えることが出来ずにいた。そんな状況の中で現実逃避出来る唯一の方法が眠りだった。眠ることで辛く長い時間を避け、自分の意識を別の世界にもっていこうとしていた。夢を見る。過去の出来事と、未来の姿が交差し、現実の自分を映し出すことは無かったが、夢の中の自分の動作や光景は全て自分の目で見て確認できていた。そのことにわずかな安堵を感じていた。だが、間もなく全盲になり、夢が形を変えて現れるようになったのは、ライトホームに入所し、そこでの生活に慣れ始めた頃だった。鮮明に見えていた夢の中に見えないものが現れ始めたのだ。親しく話をしているのに相手の顔が見えない。呼び止められ、振り返った瞬間、フラッシュを浴びせられたように眩しくて何も見えない。見える人、見えない人がごちゃ

まぜになって現れる。見えていたかと思うと突然消える。目が見えているのに白状を持って歩く自分がいる。見えるのに何故だと思っている。子供の頃の情景も、家族の顔さえも薄れていく。記憶されているものが消えていく恐怖と、必死に取り戻そうとする苦しみの中で、もがき続けていた。

ライトホームの入所者は中途失明者が多く、集まれば目が見えていた頃の話になる。皆、記憶を手繰りながら話をする。だが、夢の話は殆ど出なかった。昨夜こんな夢を見たとか、夢の中に誰かが出てきたとか、まるで夢の中の話はタブー視されているがごとく話さなかった。たまに誰かが話し始めると一様にみな押し黙って聞いていた。入所者にKさんと言う人がいた。Kさんには二人の娘さんがいたが、話の中である人が

「Kさん、娘さんが成長して綺麗になっていくのに、見られなくて悲しいね」と何気なく話し掛けると、Kさんは、

「そんなことはないよ。可愛いままの二人の姿が焼き付いているし、夢にもはっきり出てくるしね」と答えていた。が、その夜眠れずにタバコを吸いにでた談話室に人の気配がし、やはり眠れずにいたKさんが話し始めた。

「失明してから2年しか経っていないのに、小さな頃の子供たちの姿が薄れていくんだ。七五三の着物姿や、小学校入学の着飾った洋服ははっきり見えるのに、子供の顔だけが消えている夢をしきりに見る。やっきになって思い出そうとするのに浮かんでこない。つらい・・・」と言った。誰もが見える記憶が薄れていく辛さを味わっているんだと実感した。繰り返し見ることによって脳にインプットされ、映像として残っていくものが「見える記憶」だとしたら、我々視覚障害者には消え去る映像は避けられない。いやでも受け入れなければならない現実なのである。

ウッチャンには妹がいて、勇氣（7歳）と元気（5歳）という二人の男の子供がいる。この二人はウッチャンが全盲になってから生まれた甥っ子である。二人はウッチャンの目が見えないと言うことを子供ながらに理解していて、なにかにつけて一生懸命に説明してくれる。しかし、子供は大人と違い正直である。たとえば、ドラエモンやアンパンマン程度のキャラクターならなんとかわかるが、今ブームになっているキャラクターはどう説明されてもイメージが湧

かない。何を質問されても答えられない。子供は夢中で説明するがどうしてもわかってもらえないとわかると身体中で悔しさをぶつけてくる。子供の側からの見てもらえない悔しさである。

長い間農業を続け、弟、妹の親代わりとして育ててきたAさんという人がいる。突然目の痛みに襲われて全盲になった人だが、それでも弟、妹を育てるために必死に働いた。その妹さんが結婚する時にAさんへ思いをぶつけてきた。

「苦勞をかけてきたお兄さんにこんな綺麗な花嫁衣裳を着せてもらったのに、何でお兄さんは見えないの！見てもらいたいのに見せてあげられない・・・こんな悲しいことはない。今日は嬉しい日なのにお兄さんは何故こんな悲しい思いを私にさせるの」と訴えた。見えないことの辛さをずっと抑えてきたAさんは、

「お前の姿が見たい！」と妹に抱きつき、号泣したと言うが、此れは妹さん側からの見せてあげられない憤りである。

日々生活していく中で、周りにいる人たちが見えないウッチャンにわかってもらおうとこまごまと説明してくれる。自分で見てきて体験したことを同じように体験してもらおうと接してくれる人がいる。見えないことは確かに辛いことだが、健常者にも見せてあげられない悔しさと、見てもらえない悲しさがあるのだと思っている。そんな健常者の思いを察することもせず、簡単に見えないから何をやっても面白くないとか、想像するのもつまらないから嫌だと言葉にする視覚障害者を、ウッチャンは許せない。自分の意思に反して障害者の世界に命を運ばれてきた。知ったように

「ウッチャンは心の目で世の中を見ている」などと言う人がいるが『冗談じゃねえ！心の目で何が見えるというんだ！不細工な顔でも鏡に映った自分の顔が見える目が欲しい』と、いつも思っている。そんな怒りも弱さもつつぱりも、本音をさらけ出して生きてきたつもりだ。これからもそれしかない。それしか出来ないと思っている。右を見ても左を見ても何も見えない。現在にも未来にも大きな不安を抱えている。だが、運ばれた世界で生きていくしかないのなら、常に前へ足を踏み出して行こうと思っている。車道と歩道を間違えながらもゆっくり歩いて行こうと思っている。そのほうが少しでも楽しいことを見つけられると信じている。

●俺の生き様“カミングアウト”

横浜市 座頭市

今夏、初めての手帳（2級）を手にした。その頃、出張先で夜間思うように仕事ができず同行した先輩に「上司に眼のことを話そう」助言された。職場ではうすうす眼の悪いことは知られている模様だができるなら定年まで隠しとおしたいと思っていた。今回、具体的に周囲に迷惑をかけたが自分の先の生活を考えると気持ちの整理がつかず「上司に話すこと」を躊躇してしまう。そこで視覚障害者の復職を考える会（タートルの会）」に相談しアドバイスを受けた。そして上司に病気のこと、拡大読書器やパソコンソフトの活用などで障害者が働いている実態、定年までは働きたいことを話した。上司は上層部や人事に相談したらしく、数日後、必要な器具購入に理解を示し、通勤不能時には各種休暇、休職制度の活用、定年後の生活設計もするよう指導された。かくて会社へのカミングアウトは終えた。上司の話では何人かの幹部上司は眼について了知だったとのこと。ずうっと昇格昇給のないことにも納得し、なにか定年を迎えたような寂しさと安堵感に包まれた。

障害者雇用促進法では企業に障害者雇用を義務づけている。また、障害者のいる企業には補助金もあるとのこと。建前と本音が異なるのがこの世の中、当面職場でどのように適応してゆくのか、定年後の先々をどうするのか考えると頭が痛い。

つづく

（追伸）

人間いつ病気になるか分かりませんね。8月末から1カ月余り、左足麻痺で入院していました。視覚障害者の入院は不便なものでした。入院手続きの書類記入、夜間は尿器使用、退院後の再来は、液晶受付器が見づらくヘルプしてもらうなどでした。おかげで「すいません、眼が悪いので〇〇お願いします」と声かけにも少し慣れました。また、手帳があったため医療費の自己負担額は保険適用外のみでしたし、通院にバスの無料パスが使用できました。そんなかんだで七沢ライトホームの1日体験は参加できず、日常生活用具の申請も大幅に遅れてしまいました。

最近、誰でも参加できるタートルの会のMLメンバーになりました

た。メールには視覚障害の情報も掲出されますので参考になります。
眼の悪い私は総てが後向きになりがちです。少しでも前向きになれるよう易しい目標を持ち達成するようにしております。

● "秋"

座間市 横山国夫

秋は、いいなあ
柿 栗 林檎に梨 葡萄。おっと忘れたミカンちゃん
お店の前に勢ぞろい 棚からころげてこんにちは
素通りはいやよと、袖を引く

秋は、いいなあ
秋は人の心を優しくする 澄んだお空が青いから？
頬を撫でる風のせい？ それとも身近な愛がポケットに！
コスモス掻き分け 消えた人撫

秋は、いいなあ
都市化の進んだこの街も お空は狭くなったけど
遥かな山の頂きに 茜雲が広がってる
何処かでお豆腐屋さんのラッパの音

秋は、いいなあ
小さな池の小さな水面（みなも） 今年も鴨たち飛んできて
親子で水浴び、はしゃいでる 土手のススキが囁いた
「トンボやメダカはどうしたの！！」

秋は、いいなあ
枯葉がカラコロ遊歩道 木立の葉っぱも薄くなり
若い母子の影長く 落ち葉のかんざし嬉しいそう
お嬢ちゃんの今夜の夢は 七五三

秋は、いいなあ
静かな宵の窓越しも いつしか虫の音、遠くなり
想いははるか幼日の 春の野山を駆け巡る
夢うつつ 秋の夜長を独り占め

あとがき

今年もまたこの季節がやってきましたね。
そうです、21世紀プロリーグへのカウントダウン。
J R P Sにおいても、21世紀は世界大会開催国として
重要なスタートを任されています。
そして、この病気の治療法確立の目覚ましい進歩が
期待されています。
私自身の21世紀はどのようなものか・・・
ちょっと自分で予想を立ててみたいと思います。

- 2002年 世界大会の活況をよそに、リストラに遭って職を失う。
- 2005年 株が大当たりするが、
生活資金の原資に持っていかれる。
- 2007年 娘が小学校入学。まだ何とか見届けることが出来るが、
体育館の段差に躓き、一張羅のスーツを破ってしまう。
- 2008年 不惑の年を迎え、ようやく職に有りつく。
- 2010年 神奈川支部の支部長に就任
- 2015年 妻の目がだいぶ見えなくなってしまうが、未だに治療
法が確立されないことに苛立ちを覚え、暴動を起こす。
- 2020年 妻と一緒に始めた鍼灸マッサージの店「はるか」が
年商1億円に・・・
- 2025年 私の目もだいぶ見えなくなりつつあったが、
娘の結婚式でバージンロードを何とか歩き、
感慨に耽ける。
- 2030年 色変の治療法の確立を見届けることなく、心筋梗塞で
この世を去る。

まあこんなところでしょうか。治療法に関してはだいぶ悲観的な見
方をしていますが、これを見た眼科医の方々が「このやろう、見て
ろ」と、治療法確立に更なる奮起をして頂ければ願ったりです。

21世紀へ向けて、皆さんはどういう夢を見ているのでしょうか？



発行人：身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：J R P S 神奈川支部会報編集部
阿部直之
〒213-0012
神奈川県川崎市高津区

E-mail : a jp

定価 200円